

花を植える女^{ひと}

彼女は今日も自分の庭に花を植えている

春には春の

夏には夏の

秋には秋の

冬には冬の

花が好きなのか

植える事が好きなのか

せつせつせつと植えている

その庭から一步外に出てみれば

何処にでも花は咲いているのに

色々な花が沢山咲いているのに

彼女はそんな事には少しも気に留めず

今日も自分の庭に花を植え続けている

私は美味しい蜜柑の生る木を

いつ植えてくれるのかと

ずっと待っている

私を造っているのは

私は楽しくもないのに笑う事が
人に媚びているみたいで嫌だった
けれど 私が笑顔を作ること
他人が安心するのだとゆうことに
後になって気付いた

純粹すぎるのもどうかと思うと
言われたことがある

純粹で何が悪いと思っていた
けれど どんどん矛盾を抱えてしまい
抜け出せなくなり後悔した

私とゆう人間を造っているのは
自分では無いのだとゆう
悲しい事実を忘れ掛けていた

ライバル

彼女は淡い香水の香りを纏っている

抜かりは無いね

ちよつと卑怯だと思っただけだね

でも無理だと思ふよ

彼は空を仰ぎ見るのが好きで

自分の居場所を大切にする人

だからきつと

飾らない笑顔が一番

一緒に空を見上げる事が

出来る人が似合ってる

私 一歩リードだね